

「らしさ」って何だろう(会頭コラム)

暖かい風に揺れ、冷たい雨に打たれ、そしてハラハラと散り...と今年もまた、会議所の周りのお城の桜は実に様々な姿で私たちを楽しませてくれました。本当にこの地はいいところだと思つづくと思います。

まちづくりを語る時、よく「小田原らしさ」、「箱根らしさ」と言います。確かに地元の資産を活かすという点では大切なことでしょう。しかし、どうも、ピンとこないのです。「らしさ」という言葉で皆さんが頭の中に描く画がそれぞれに異なるからかも知れません。また、隣のまちも「らしさ」を打ち出そうとしているからかも知れません。その結果、どうも焦点は絞れず、すべてが中途半端に終わっていやしいかと。

ここはいっそ、「らしさ」からもう一步踏み込んで、「小田原しか、箱根しかできないこと」って何だろうと突き詰めて考えてみる必要があるかと思ひ始めました。翻って、それは自社、自店についても同じことが言えるのではないでしょう。強みを最大限に活かして自分しかできないことを徹底的に磨き込む。そんなこと強く思いながらの新年度のスタートです。

追申:4月24日の会員大会で、一人でも多くの会員さんにお目にかかりたいと切望しております。

会頭 鈴木悌介